

平成 24 年度

公立高等学校入学者選抜学力検査
成績調査結果報告書

山梨県教育委員会

目 次

I 調査の概要	1
II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要	1
III 教科別調査結果の概要	
国 語	2
社 会	4
数 学	5
理 科	7
英 語	9
* 得点の度数分布グラフ	11
* 平均点推移グラフ	17
* 正答率調査表	19

I 調査の概要

1 調査の目的

平成24年度山梨県公立高等学校入学選抜のために実施した学力検査の成績結果の調査・分析を通して、本県公立高等学校志願者の学力の実態を把握し、本県中学校及び高等学校の教科教育向上のための資料とすることを目的とする。

なお、この調査は抽出調査による客観的資料であり、各教科の出題のねらいに照らしたものである。

2 実施日、調査教科

平成24年3月7日（水）

国語（55分）	9：30～10：25
社会（45分）	10：40～11：25
数学（45分）	11：40～12：25
英語（45分、うち「リスニング」約12分）	13：30～14：15
理科（45分）	14：30～15：15

3 調査対象者

全日制公立高等学校入学選抜検査の全教科（5教科）を受検した者全員4,760人（男子2,519人／女子2,241人）を対象としている。

なお、正答率調査表については、上記受検者の中からの抽出者を対象としている。抽出人数は478人で、全体に占める抽出者の割合はおよそ10%である。なお、対象者の抽出に当たっては、全ての高等学校での受検者を対象に、その受検高等学校の受検者数に応じて、男女に関係なく、無作為に抽出した。

II 総合得点（全教科の合計点）の調査結果概要

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容に即して、基礎的・基本的な事項を重視するとともに、応用力もみることができるように出題すること。
- ② 当該教科の各分野、領域及び事項にわたって偏りのないように出題すること。
- ③ 単に記憶の検査に偏らないように配慮し、思考力、判断力、表現力等を検査することができるように工夫すること。
- ④ 全県的な視野にたつて出題し、地域差による影響が生じないようにすること。
- ⑤ 特定の教科書等の使用者が有利になることのないようにすること。

2 得点別にみた度数分布

総合得点の平均点は266.7点で、前年度より9.8点高い。最高点は482点、最低点は46点であり、その得点分布は（図1-1 P11）に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は266.4点（前年度比+7.8点）、女子は267.1点（前年度比+12.2点）で、女子が男子より0.7点高い。その得点分布は（図1-2 P11）に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成20年度から今年度入試まで5年間の全体平均点は（図1-3 P17）のように推移している。

Ⅲ 教科別調査結果の概要

○ 国 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の3領域と「言語事項」の内容に加え、「関心・意欲・態度」、「知識・理解」をもはかる分野を網羅し、検査するものとし、あわせて、全学年にわたり、全領域から偏りのない出題となるように配慮した。
- ② 話すこと、聞くことに関しては、話合いの系列に含まれる学習活動である「インタビュー」を取り上げた。従来は、インタビューの本番でのやりとりだけを題材にしてきたが、新学習指導要領で充実させることが求められている言語活動を位置付け、結果だけでなく、プロセスについて問う出題内容とした。
- ③ 説明的な文章については、人間とサルとのコミュニケーションの違いから、推論的なコミュニケーションの重要性を考えさせる文章を取り上げ、筆者の論理の展開と主張を的確にとらえる力を問うた。あわせて、和歌を題材として、古典の基礎的な力を問う出題内容とした。
- ④ 文学的な文章については、「心のつながりの大切さ」について考えさせる文章を出題した。会話文を中心とした豊かな心情描写、五感を使った情景描写や効果的な比喩表現などに着目させるとともに、この文章のメッセージに正対して、自分の考えを具体的な体験を思い起こしながら表現する力を問う出題内容とした。
- ⑤ 配点については、一領域の比重が大きくなりすぎることがないように配慮した。

2 得点別にみた度数分布

全体の平均点は68.4点で、昨年に比べて2.6点高い。最高点は99点、最低点は8点で、その得点分布は(図2-1 P12)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は66.2点、女子は71.0点で、女子が男子より4.8点高い。その得点分布は(図2-2 P12)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成20年度からの5年間の全体平均点の推移は、(図2-3 P17)に示すとおりである。平成24年度は、5年間で2番目に高い平均点となっている。

平成20年度以降、男女の平均点の差は4点以内で推移していたが、平成24年度は、差の開きが4点を超え、5年間で最大の差となっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

☐ 言語事項(漢字・書写・言語生活)

一、二では、親近感や話題性のある短文を設定し、基本的な常用漢字の読みと書き取りを出題した。全般的にはよくできているが、一の読みのうち、「含蓄」の正答率が非常に低い。二の書きのなかでは、ウの「かんけつ(簡潔)」の正答率が低い。普段から、日常生活の場面における漢字について学習し、同じ読みの漢字の使い分けにも注意しておきたい。

三は、同音異義語の区別ができるかどうかを問う問題である。同音異義語の識別は実際の言語生活においても重要な事項である。不用意に使用すると、意味内容の伝達に混乱を引き起こすこともあり、注意して使用することが求められる。

正答率は91.4%であり、基本的な同音異義語に対する理解は高いものであった。

四の書写は、小学校で学習した筆順についての原則的なことへの理解に基づき、行書の特徴である「点面の連続、省略」を理解できているか問うこととした。対象とした字は、「関」である。行書の特徴を表す点面の連続、省略が顕著なものの中から、教育漢字を対象にして設定した。

正答率は85.1%であり、行書の特徴に対する理解は高いものであった。

☐ 話すこと・聞くこと

一は、実際のインタビューに取りかかる前に、友人と検討し合い、課題を修正してからインタビューに臨む場面を想定した。自分の考えを的確に話すためにふさわしい話題を選び出すことができるかどうかを

問う問題である。

二は、インタビューの目的に沿って質問をすることができるかどうかを問う問題である。インタビューを成功させるには、相手の言葉を正確に踏まえて進めることが大事である。相手の言葉の中にある思いを理解しながら、自然な流れの中で自分の目的に向けて話を導いていく必要がある。ここではそのための質問の内容としてふさわしいものを考えることを求めている。

正答率は、それぞれ98.3%、40.9%であった。

- 三 説明的文章 出典 『考えないヒト』 正高信男 (中公新書, 2005年 7月刊)
『万葉集』 日本古典文学全集 (小学館, 1994年 5月刊)
『古今和歌集』 日本古典文学全集 (小学館, 1994年11月刊)

一は、文章の展開を確かめながら、前段との論理的なつながりを考えさせる問題である。正答率は88.3%と良好な結果であった。

二は、筆者の論理のすすめ方に即しながら、事実と意見とを区別し内容を把握させる問題である。ここでは、キツネザルのコミュニケーションと人間のコミュニケーションの違いを捉えさせ、その中で、ヨーロッパの昔話の持つ意味を考えさせる問題として設定した。正答率は80.5%であった。

三は、語句の意味を文脈の中で捉えさせ、対比的な表現に着目させる問題であり、正答率は48.1%と低かった。全文の中で人間とサルとのコミュニケーションの違いを把握できたかどうかのポイントとなった。

四は、文章の展開を確かめながら、筆者の主張をとらえることができるかを問う内容把握の問題で、正答率は71.3%であった。

五の(1)は、古文とそれに対応する現代語訳を手がかりに、和歌中の表現をもとに、どのようなことを推測しているのかを考えさせる問題である。正答率は54.6%であった。

(2)は、和歌とそれに対応する現代語訳を手がかりに、表現の仕方に留意して、作者の思いについて考えさせる問題である。正答率は66.5%であった。(3)は、歴史的仮名遣いの読み方に関する問題である。正答率は60.7%であり、歴史的仮名遣いの読み方の問題としては、例年より低い正答率だった。やや難しい読みの学習については、課題が残った。

- 四 文学的文章 出典 『しずかな日々』 柳月美智子 (講談社文庫, 2010年6月刊)

一は、「言語事項・語句」に関する問題である。文中における慣用句の意味や用法について理解しているかを問うもので、正答率は44.6%であり、全問中で3番目に低い正答率であった。普段から、慣用句に習熟し、文中や会話中で実際に使ってみることが重要である。

二は、文の成分について、修飾語と被修飾語の関係を正しくつかむことができるかを問う問題である。正答率は、72.2%であった。

三は、文脈の中における語句の効果的な使い方について理解しているかどうかを問う問題である。正答率は67.2%であった。

四は、文章の展開に即して内容をとりえることができるかを問う問題で、正答率は70.1%であった。

五は、内容把握に関する問題で表現の仕方に注意して読むことができるかどうかを問うた。指定した言葉を使わせながら、主人公の思いをまとめさせた。正答率は76.6%であった。

六も、内容把握に関する問題であるが、文章に表れているものの見方や考え方を理解しているかどうかを問う出題とした。正答率は81.6%であった。

七は、授業での実際の学習の場面を想定した設問である。(1)は、表現の仕方や文章の特徴に注意して読み、表現技法の特徴に気づくことができるかどうかを問う問題である。(2)は、表現技法の効果を問う問題である。(1)の正答率は87.7%、(2)は81.4%の正答率であった。

八は、「書くこと」領域の問題である。文章を読んで「心のつながりの大切さ」について考えたことを、条件にしたがって記述することができるかどうかを問うた。配点15点のうち、0~5点の分布の計が15.8%、6~10点が69.0%、11~15点が15.1%であり、例年よりも良好な結果であった。

5 全体を通しての考察

常用漢字の読み書きなどの基本は、おおよそ身に付いており、訓読みについても例年より良好な結果であったが、やや難しい漢字の書き取りについては、十分に習得されていない面も見られた。また、言語生

活の面について、実際のコミュニケーションの場面で、話の流れを十分に把握し、適切な質問をしながら会話を進めることに関して課題が残った。

国語力全体としては例年以上に良好な検査結果であり、無答数も少ないことから、国語への興味・関心の高さも伺われた。古典に関する問題については、誤答数が比較的多いので、音読などを通して文章の内容や優れた表現を味わうことを一層進めていきたい。

例年と同様に、本来は易しい問題であっても、考えて書く記述式の出題形式となると、正答率が低くなる傾向にある。言語活動を通して、思考力、判断力、さらには表現力の育成が行われなければならない所以であろう。

○ 社 会

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 地理的分野、歴史的分野、公民的分野の三分野にわたって、基礎的・基本的な学力が検査できるように配慮した。
- ② 写真、図、表、グラフなどの資料をとおして、思考したり、判断したり、表現したりする力を問い、また多面的・多角的な資料活用能力を問うようにした。
- ③ 中学校学習指導要領の趣旨に沿った出題に心がけるとともに、身近な地域である山梨に関する題材をできるだけ取り入れるように配慮した。その際、山梨県出身者のみに有利にならないように留意した。

2 得点別にみた度数分布

平均点は50.1点で、前年度より5.2点高かった。最高点は100点、最低点は2であった。得点分布は(図3-1 P13)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は51.3点、女子は48.6点で、男子が女子より2.7点高い。その得点分布は(図3-2 P13)に示すとおりである。

(平成23年度学力検査の平均点は44.9点)

3 平均点の推移

平成20年度から今年度までの5年間で、社会科の平均点は(図3-3 P17)のように推移している。平成20年度から続けて数点ずつ低下して平成23年度が最低であったが、平成24年度は上昇した。その理由としては、受検生が記述式の問題や文章で表現する形式の問題に対応できるようになってきたと考えられる。一方で、図やグラフなどの資料(特に地理分野)を読み解く知識・技能は十分ではないと思われる。また、男女別比較でみると男子が女子を上回る傾向が続いている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P19)

① 地理的分野

最初の問題、扇状地の名称を問う問題は、正答率が78.2%と高かった。山梨県の写真を使用するなど、受検生にとって馴染み深いと思われる。

記述式で解答する問題では、町並み保存を問う問題は正答率が7.3%である一方、山梨県の自然を生かした発電方法を問う問題の正答率は63.8%であり、記述式でも身近な話題を取り上げた問題は受検生にとって答えやすかったと思われる。

経度から時差を計算する技能や、正距方位図法の特徴を利用して二点間の距離を調べる技能などの基本的な地理の技能を問う問題の正答率はそれぞれ17.4%、18.6%と低かった。

EUの主な相手国別輸出動向など、表から貿易額の増減を考える問題は正答率が66.3%と高かった。数字を大まかにつかんで考えるという技能は習得していると思われる。

② 歴史的分野

歴史の問題は基礎的な内容を問う出題が多かったため、正答率はどの問題も高かった。その中では、中間1(3)の聖徳太子についての問題が43.9%、中間2(3)の1964年以後の世界での出来事についての問題が38.5%と、他と比べて低かった。人物や出来事の名前などを暗記しても、その内容やそれに

係わる因果関係などが十分に理解されていないことが原因と思われる。学習は暗記だけでなく、歴史事象の理解が大切であるということをあらためて認識して欲しい。

3 公民的分野

公民的分野では基礎的・基本的事項を問う問題が多く、正答率が高かった。また、公民的分野は中学3年で学習するため、歴史・地理的分野に比べると正答率が高い傾向にあることは例年どおりである。その中で、政治の分野よりも、経済の分野の正答率が高かった。政治については具体的に状況を考えることが、理解につながるとと思われる。衆議院の解散と参議院の定数についての問題や、予算における衆議院の優越についての問題は、記述式で答えにくかったのか、正答率は15.3%、39.7%と低かった。日頃から学習した用語などを実際の社会的事象と関連づけて考えることが求められる。

4 三分野総合

正答率では、難民(35.1%)、イスラム教(38.9%)、日本の国際社会への復帰(28.6%)に関する問題が低かった。それぞれ地理・歴史・公民的分野の基礎的基本的な知識・技能であっても、総合問題として出題されると、受験生には答えにくく、正答率が低くなる傾向にある。日頃から各分野の知識を活用して、総合的に考える学習が求められている。また、最後の国連の目的を問う問題の正答率は11.6%と特に低かったが、細かい知識ばかりでなく、国連の存在意義に関する重要な知識については、特にしっかりと理解して欲しいところである。

5 全体を通しての考察

基本的な内容を問う問題については、高い正答率で良好な検査結果であった。しかし、資料を読みとり正解を導く問題や、事象を年代順に並べ替える問題などで正答率が低かったことから、個々の事象を多面的に考察したり、関連づけて判断、表現する力において課題が見られた。授業等で学んだ知識や技能をよりしっかりと定着させるためにも、一つひとつの事象を、個別に理解しようとするのではなく、多面的にとらえて考察したり、因果関係など時間的・空間的な広がりの中で理解する力を育むことが大切である。あわせて、社会的事象や判断の結果を正しく説明できる表現力を育成することにも引き続き努力しなければならない。

○ 数 学

1 出題のねらい、配慮事項

数と式、関数、図形、資料の活用の各領域にわたって、基礎的な概念・原理・法則の理解や、数学的に表現し処理する能力の把握に重点を置きながら、事象を数理的に考察する能力や数学を活用する態度が検査できるように次の点に配慮して出題した。

- ① 身近な課題に対して、主体的に解決する力が検査できるようにした。
- ② 知識や技能を活用して、問題を解決する力が検査できるようにした。
- ③ 複数の領域にわたって、総合的に考える力が検査できるようにした。
- ④ 記述式の解答形式を増やし、思考過程や問題解決の手順などが検査できるようにした。
- ⑤ 移行措置された新しい学習指導要領の内容を問う問題を出題した。

2 得点別に見た人数分布

平均点は48.2点で昨年より5点高い。その得点分布は(図4-1 P14)に示すとおりで、最高点は100点、最低点は0点である。

平均点を男女別に比較すると、男子49.1点、女子47.1点で男子が女子より2点高い。その得点分布は(図4-2 P14)に示すとおりであり、60点以上において、男子の構成比が女子のそれを上回っている。

3 平均点の推移

平成20年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図4-3 P18)のように推移している。数学的な見方や考え方を問う問題や思考過程を記述する問題を多く取り入れてきたが、以前は50点台を推移していたが、ここ3年間は40点台となっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

① 「数と式の四則」(基本)基礎的・基本的な数式の処理ができるか。

全体的には高い正答率であった。6問中5問が80%を超えた。最も正答率の低いのは、単項式の乗除計算で正答率は75.1%である。基本的な計算処理については、ほぼ十分な定着がうかがえる。

② 「基礎的事項」(基本)基礎的な知識に基づく表現や処理ができるか。

移行措置である数量の間の関係を不等式で表す問題の正答率は55.6%,連立方程式を解く問題では85.1%,確率の問題は80.3%,円周角の定理の問題は70.3%であった。作図問題では、今年も知識の活用を求める問題としたが、正答率は9.5%(部分点を含めても11.6%)であり、想定を大幅に下回った。

③ 「資料の活用」(標準)身近な事象をヒストグラムに表現したり、最頻値や度数の割合を求めたりすることができるか。また、代表値を用いて、資料の傾向をとらえ説明することができるか。

この問題は移行措置の内容である。度数分布表からヒストグラムを作成する問題は94.8%の正答率であり、良くできていた。最頻値については28.2%で、想定を大きく下回った。全体から見た割合が57.5%,理由をつけて答える問題が23.4%であった。語句の概念の理解や求値方法に不安が残る結果となった。

④ 「数と式」(標準・応用)文字を用いた式を目的に応じて変形したり、式の意味を読み取ったりするなど、的確に処理することができるか。

1の2の倍数であるための条件では正答率が74.9%であったが、2の(1)の3の倍数であるための条件では正答率が20.1%,3の(1)の式変形では正答率が9.6%であった。1の正解が知識に頼ったものもうかがえ、2,3に応用することができなかつたことが分かる。数式から読み取れる事柄を求めたり、数式を使って説明するなどの学習がますます必要であると考えられる。

⑤ 「関数・図形」(標準・応用)関数のグラフから、基礎的な事柄を求めたり、図形の性質と総合して考察し処理することができるか。

1の2次関数の基本的事項については正答率が77.0%であった。2以下の座標と図形の融合問題については正答率が想定を大きく下回った。4については、2の結果が影響していると考えられる。しかし、証明については33.7%で部分点を含めれば75.0%と、まずまずのできであろう。

⑥ 「空間図形」(標準・応用)空間図形を、基礎的な知識や技能を活用して、多面的に観察・考察し、的確に処理することができるか。

1は見取り図における長さの問題で、長さが等しいことは認識できているが、なぜ等しいかの説明までできているのは50.3%にとどまった。2の正四面体に関しては、1辺の長さの正答率は72.0%とまずまずであるが、その表面積については13.8%あった。正三角形と認識できなかったのか、正三角形の面積が求められなかったのかは判断できない。3では立方体の中に現れる正八面体を題材とした。正解率が(1)で20.3%,(2)で6.9%であり、辺の長さや対称性を利用して空間図形を把握することに課題が残る結果となった。

空間図形を平面図形として考えることや、見取り図により上から見たり下から見たりすることにより、平面の知識が活用できる問題となるので、粘り強く考え抜いて欲しかった。

5 全体を通しての考察

基礎的・基本的な知識や技能については、ほぼ十分な定着がうかがえる。しかし、移行措置である統計の語句の理解と活用の部分や、整数に関する問題で数式を用いたり、それを読み取ることが要求される設

問において課題が残る結果となった。身近な場面や数学的な事象において、基礎的・基本的な知識や技能を積極的に活用する姿勢が求められる。また、例年の傾向として、複数の領域の内容を総合して扱う設問においても課題がある。数学的なものの見方や考え方を磨き、創造的な思考力を身に付けるために、多様なアプローチができる問題に様々な角度から取り組む経験やねばり強く考えること、自らの考えを言葉で表現したり、式・図形などを用いて数学的に表現したり説明したりする学習を充実することが、なお一層必要であろう。

○ 理 科

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 学習指導要領の趣旨に基づき、「自然の事物・現象に進んでかかわり、目的意識をもって観察、実験などを行う」に留意した。また、理科への興味・関心、思考力・判断力・表現力等が見られるように配慮した。
- ② 全学年にわたり、移行措置内容も踏まえ、第1分野、第2分野の全領域から偏りがなく学力の検査ができるようにした。
- ③ 観察、実験を重視し、自然の事物・現象を理解するための基礎的・基本的事項についての学力が検査できるように配慮した。
- ④ 思考過程や問題解決の手順など論理的な思考力が検査できるようにした。
- ⑤ 日常的な自然現象に関心を持ち、学習したことを基に考えようとする力を検査できるように配慮した。
- ⑥ 身近な材料を使い学習内容を確認することで、実社会・実生活との関連を実感できるように配慮した。

2 得点別に見た度数分布

平均点は、47.1点で前年より2.8点低い。最高点は100点、最低点は0点で、その得点分布は(図5-1 P15)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較してみると、男子は48.7点、女子は45.4点で、男子が女子より3.3点高い。男女別の得点分布は(図5-2 P15)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成20年度から今年度までの5年間の全体平均点は(図5-3 P18)のように推移している。平成20年に比べ、平成21年度から平均点が低くなっているが、これは解答の根拠や説明を求める論述形式や、完全解答を求める問題が増えたためであると考えられる。

また、男女別比較でみると、毎年男子が女子を上回っている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P20)

① 「生物の変遷と進化」「自然界のつり合い」

生物の進化の順序と基本的な分類及び相同器官について正しく理解しているかを検査した。また、生物どうしのつながりにおける生産者のはたらきである光合成と消費者について理解しているかを確認した。さらに、食物連鎖における分解者のはたらきについて正しく理解し、論述により説明できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かった。

② 「火山活動と火成岩」

組織と色の違いから分類した表やスケッチから、火山岩には斑状組織、深成岩には等粒状組織という共通点があることを理解しているかを確認した。また、組織の違いが岩石の成因と関係していることを説明できるかを確認した。さらに、組織や色の違いから、その特徴に当てはまる岩石を選択できるかを確認した。基本的な問題が多く、全体的に正答率は高かったが、岩石の名称を問う問題の正答率は予想を大きく下回り、課題が見られた。

③ 「溶解度と再結晶」

溶液に含まれる物質について正しく理解しているかを確認した。溶解度の値から物質の溶け方を思考し、正しく判断できるかを確認した。溶解度曲線を正しく理解し、グラフの読み取りができるかを確認した。飽和溶液に含まれる物質の質量関係の知識を活用し、基本的な計算ができるかを確認した。再結晶について正しく理解し、論述により説明できるかを確認した。グラフの読み取りに関する問題、計算問題の正答率はそれぞれ10.9%、15.5%と低く、課題が見られた。

4 「圧力」

物体にはたらく大気圧の向き、大気圧による現象について正しく理解しているかを確認した。圧力の定義を理解し、基本的な計算ができるかを確認した。ペットボトルの実験について、水の状態変化とペットボトルにはたらく力を正しく理解しているかを確認した。また、物体の体積と物体にはたらく浮力の関係について正しく理解し、論述により表現できるかを確認した。全体的に正答率は低く、特に、計算問題の正答率は13.6%と低く、課題が見られた。

5 「生命を維持する働き」

ヒトの消化において、食物に含まれる主な3つの成分と、それらが消化される際に働く消化酵素について理解しているかを確認した。また、だ液に含まれる消化酵素の働きを調べる実験における適切な温度条件と、だ液に対する消化酵素の働きについて実験結果を判断できるかを確認した。さらに、この実験で、だ液と同時に水を用いて比較対照実験を行う理由を説明できるかを確認した。全体的に予想より正答率は低く、特に、実験結果を問う問題の正答率は28.7%と低く、課題が見られた。

6 「天体の動きと地球の自転・公転」「月の運動と見え方」

恒星の年周運動について理解し、地球と太陽、恒星の位置関係から季節が推測できるかを確認した。また、恒星の日周運動について理解し、南中時の時間と見え方を判断できるかを確認した。地球、太陽、月の位置関係を正しく理解し、月の位置及び見え方を判断できるかを確認した。さらに、月食が起こる時の月の位置を正しく判断し、その理由を説明できるかを確認した。作図問題の正答率は37.3%と予想より低く、課題が見られた。

7 「化学変化と熱」「酸・アルカリとイオン」

酸とアルカリの中和に関わるイオンを、イオン式で表すことができるかを確認した。中和に関する実験について、内容を正しく理解し、中和が発熱反応であることを正しく判断できるかを確認した。アルカリによるフェノールフタレイン溶液の色の変化及びその理由を論述により表現できるかを確認した。中和によって生成した塩の質量、中和における溶液中のイオンの総数について、正しく理解しているかを確認した。中和における量の変化を問う問題と論述に関して課題が見られた。特に、イオンの総数の変化を問う問題の正答率は19.3%と低かった。

8 「電磁誘導と発電」「運動の速さと向き」

電磁誘導について正しく理解しているかを確認した。電磁誘導に関する実験について内容を正しく理解し、実験結果から物体の速さを求めることができるかを確認した。さらに、物体の速さの変化にともなう誘導電流の変化を推測し、その理由を説明できるかを確認した。基本的な知識を総合し、思考・判断ができるかも確認した。また、電力と電力量の関係を正しく理解し、基本的な計算ができるかを確認した。実験内容やグラフを正しく理解して速さを求める計算問題、理由を説明する問題の正答率はそれぞれ16.1%、10.1%と低く、課題が見られた。

5 全体を通しての考察

中学校の学習指導要領に示された目標・内容に則して、基本的な学力及び思考力や表現力を測ることができる形式の問題を多く出題した。問題の難易度は昨年度並みであったが、記述問題、計算問題をやや多くした結果、それらの正答率が低く、平均点の低下が見られた。昨年度と同様に、知識を活用し表現する力を見るために、理由や説明を求める論述問題を各大問に出題した。論述問題の正答率にやや上昇が見られたが、基本的な知識やグラフ等を活用して正答を導く問題は正答率が低かった。正確な知識の定着と同時に、知識を活用して思考する力の育成が望まれる。

○ 英 語

1 出題のねらい、配慮事項

- ① 中学校学習指導要領に示されている外国語の目標及び内容に則して、基礎的・基本的な事項の理解度を評価できるように配慮し、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の各領域にわたって出題し、総合的な英語の学力が検査できるようにした。
- ② 学習指導要領では、「聞くこと」「話すこと」などの実践的コミュニケーション能力を重視していることから、リスニングテストに言語の使用場面や発話の意図に関わる問題を取り入れ、リスニングテストの比重を約30%とした。
- ③ 「読むこと」については、昨年度と同程度に使用語数を増やすことで長文化を図るとともに、生徒の英語を理解する能力を様々な方法で検査できるようにした。また、与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる英作文や、読解した英文等を活用して誰かを紹介する英文を書かせるなど、自己表現させる問題を取り入れることによって、実践的コミュニケーション能力の重要な要素である「表現力」も検査できるように配慮した。自己表現に関する設問の採点にあたっては、コミュニケーションを妨げないようなミスは減点の対象としないこととした。

2 得点別に見た度数分布

平均点は52.9点で、前年より0.2点下がったがほぼ昨年と同程度であった。最高点は98点、最低点は0点で、その分布は(図6-1 P16)に示すとおりである。

平均点を男女別に比較すると、男子は51.1点、女子は55.0点で、女子が男子より3.9点上回った。男女別の得点分布は(図6-2 P16)に示すとおりである。

3 平均点の推移

平成20年度から今年度入試までの5年間の全体平均点は(図6-3 P18)のように推移している。

今年度の平均点は昨年度とほぼ同程度であった。大問1~3は主に「聞くこと」に関する力を検査している。大問1は設問の選択肢数が3から5に増えたが、昨年同様に平均点は高く、受検生に一定の「聞く力」が養われていることがうかがえる。大問4及び5の英文については、語数を昨年度に引き続き総計で1000語程度にし、まとまった英文を限られた時間内に的確に理解する力を検査できるようにした。「読むこと」に関する力と「書くこと」に関する力を総合的に育成していくことが求められる。

また、男女別比較でみると、昨年同様女子が男子を上回っている。その差は3.9点と昨年の2.1点に比べ若干広がっている。

4 大問別の内容と調査結果の分析(正答率調査表 P21)

① 「聞くこと」に係る問題

英文を聞き取り、表やグラフに関する質問に対する答えを選ぶ問題である。表やグラフに関する質問を聞き取った上で、解答に必要な情報を的確に探し出す力を試す問題である。音声とデータを的確に結びつけることにより、英文を聞き取る基礎的能力を検査できるようにした。

平均正答率は90.7%と昨年の94.6%を下回ったものの、基本的な聞き取り能力は良好といえる。

② 「聞くこと」「読むこと」「話すこと」に係る問題

短い会話を聞いて問いに対する答えを選ぶ問題で、様々な場面でのコミュニケーション能力を検査したり、言語の使用場面や発話の意図を理解できるかを評価したりできるようにした。

平均正答率は、74.4%と昨年度の84.6%より約10%下がった。

③ 「聞くこと」「読むこと」に係る問題

まとまった内容の英文を2回聞いて、各英文の内容に関する質問に答える問題である。各英文のテーマや文脈を理解した上で、内容に関する質問を聞き取り、適切な答えを選択できるかを試しているものであり、昨年度より導入した問題形式である。

平均正答率は75.1%と昨年度の79.1%と比較すると若干下がった。2-2の正答率が47.1%と他と比較して低かったのは、解答となる箇所を的確に聞き取ることが難しかったためと考えられる。

4 「読むこと」「書くこと」に係る問題

中学生の真紀が、夏休みに家族でイギリスを旅行し、自分の体験やイギリス人のMr. Brownとの会話から学んだことを、夏休みの課題としてまとめた内容である。英語を運用する上で必要な基礎的言語材料（単語、文法等）についての知識、文脈を把握した上で読解したり表現したりする能力、英語を言い換えて表現する能力、日常的な事柄を英語で表現するための基礎的な能力等を検査できるようにした。単語の空欄補充問題では、文脈を読み取ったうえで知識を活用して解答させる。また、英文の空欄補充問題では、本文の文脈に合わせて適切なものを補充させる形式にした。様々な観点から読解力を検査できるようにした。また、英語で表現する基本的な能力を検査できるようにした。

設問3の本文中の空欄に文脈から考えて適語を入れる問題及び設問6の本文と同じ内容になるよう英文中に適語を入れる問題は、それぞれ平均点が17.5%、29.0%と低く、文脈を的確に理解したり、理解した英文の内容を本文中に使われていない英語で表現したりする力に課題がある。

設問1、5の与えられた日本語の内容に合う英文を書かせる問題は、正答率が各21.3%、20.1%と低かった。設問1は、現在分詞を使った後置修飾あるいは関係代名詞を使って証言すること、設問5は授与動詞を使った文型が適切に使えることがポイントとなったが、基本的な文法知識を使って英文で表現する力に課題が残った。

5 「読むこと」「書くこと」に係る問題

高校生の和樹が、姉から紹介された本の主人公について、「みんなに紹介したい人」として英文を書き、クラスで発表したという設定である。この本の主人公であるWilliamは、十分に電気が使用できない国に生まれ、学校で学ぶこともできない状況の中、図書館で見つけた本から得た知識を活用して、風車による発電装置の製作に成功する。本から学んだ知識を、生活を改善するために活用することの大切さ、さらには学ぶことの意義を和樹はWilliamから学ぶ、という内容である。質問の答えを選択させたり、内容を要約した英文を完成させたり、内容を時系列で考えさせたり、文中の空欄に文脈から判断して適切な英文を補充させたりすることで、様々な観点から英語を読解する力を検査できるようにした。また、本文と同じ「みんなに紹介したい人」について、五つ以上の英文で書かせることで、コミュニケーションが成立するように英語で適切に表現する力を検査できるようにした。この設問では、コミュニケーションを妨げない綴りのミスなどは減点しないこととした。

設問5は、発表を聞いたクラスメイトが書いた感想の形で本文を要約する問題であるが、平均正答率は28.2%と低かった。これも読解した英文を適切に要約する力を試す問題であるが、文法知識と文脈を理解する力の両者が求められているため、昨年同様に正答率は低かった。

設問6は本文を踏まえ、「誰かに紹介したい人」を五つ以上の英文で書く問題であったが、満点の正答率は20.7%であった。しかしながら、無答の者は16.3%であり昨年の19.7%よりさらに減っている。五文以上は書けなかったものの、なんとか英語でコミュニケーションが成立するように表現しようとする態度は向上していると判断できる。自分のことを適切に相手に伝えるということを意識しながら、学習した英語を使って表現力を高める指導がさらに求められる。

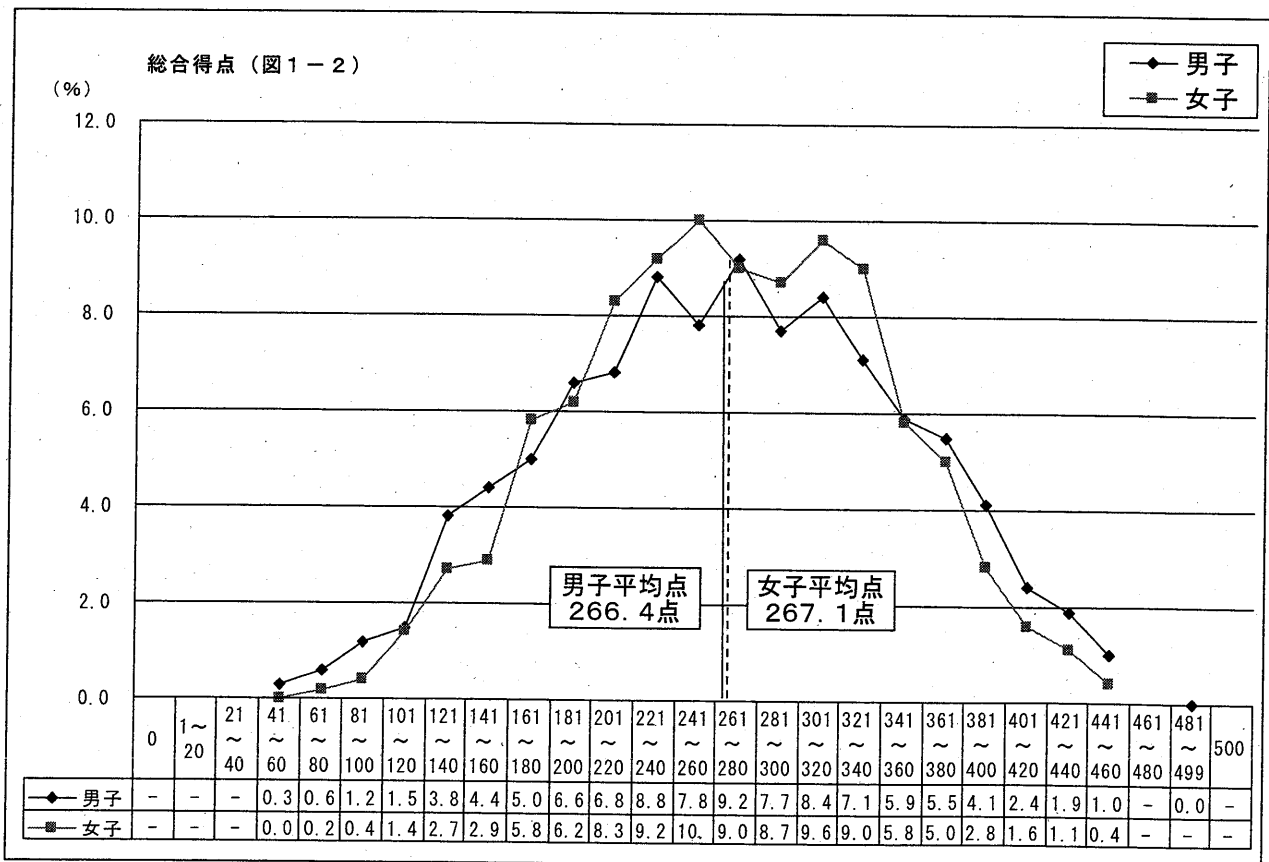
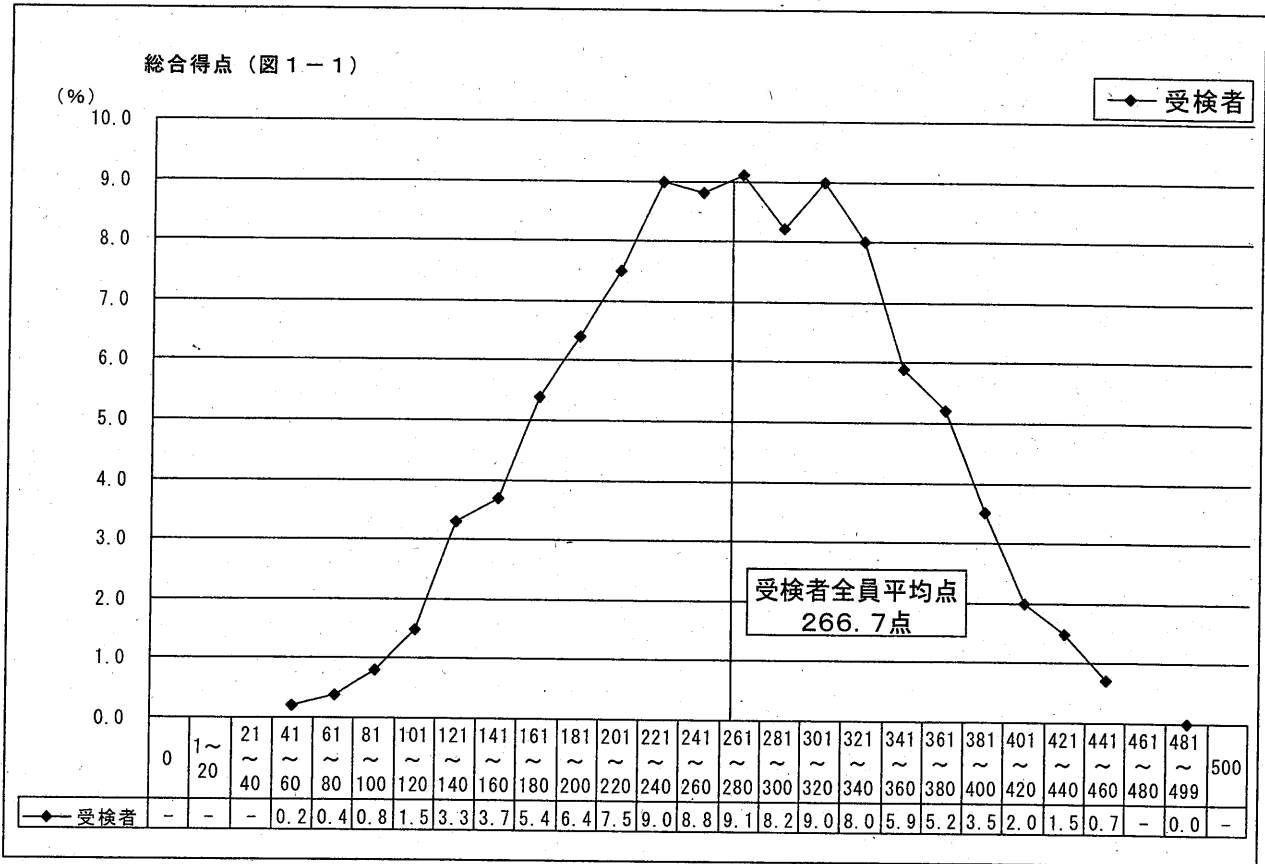
5 全体を通しての考察

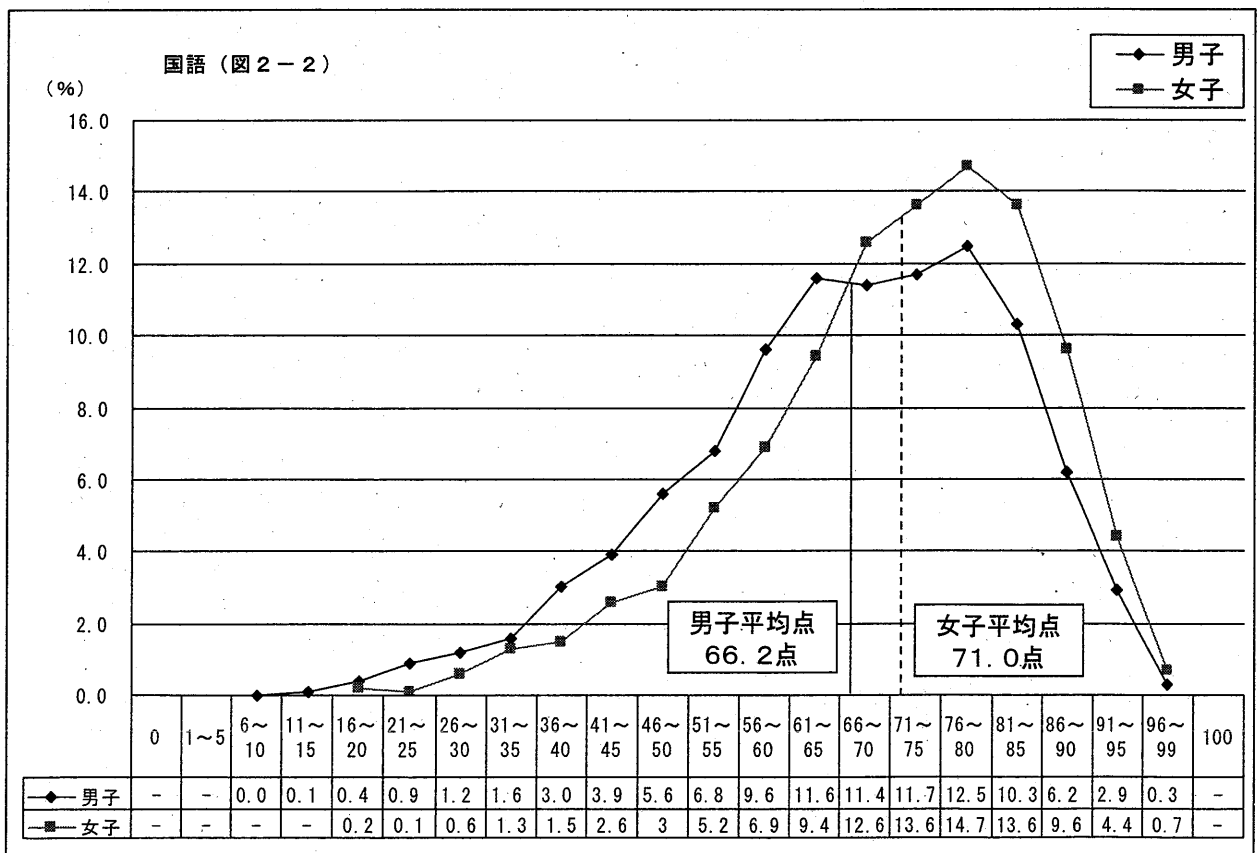
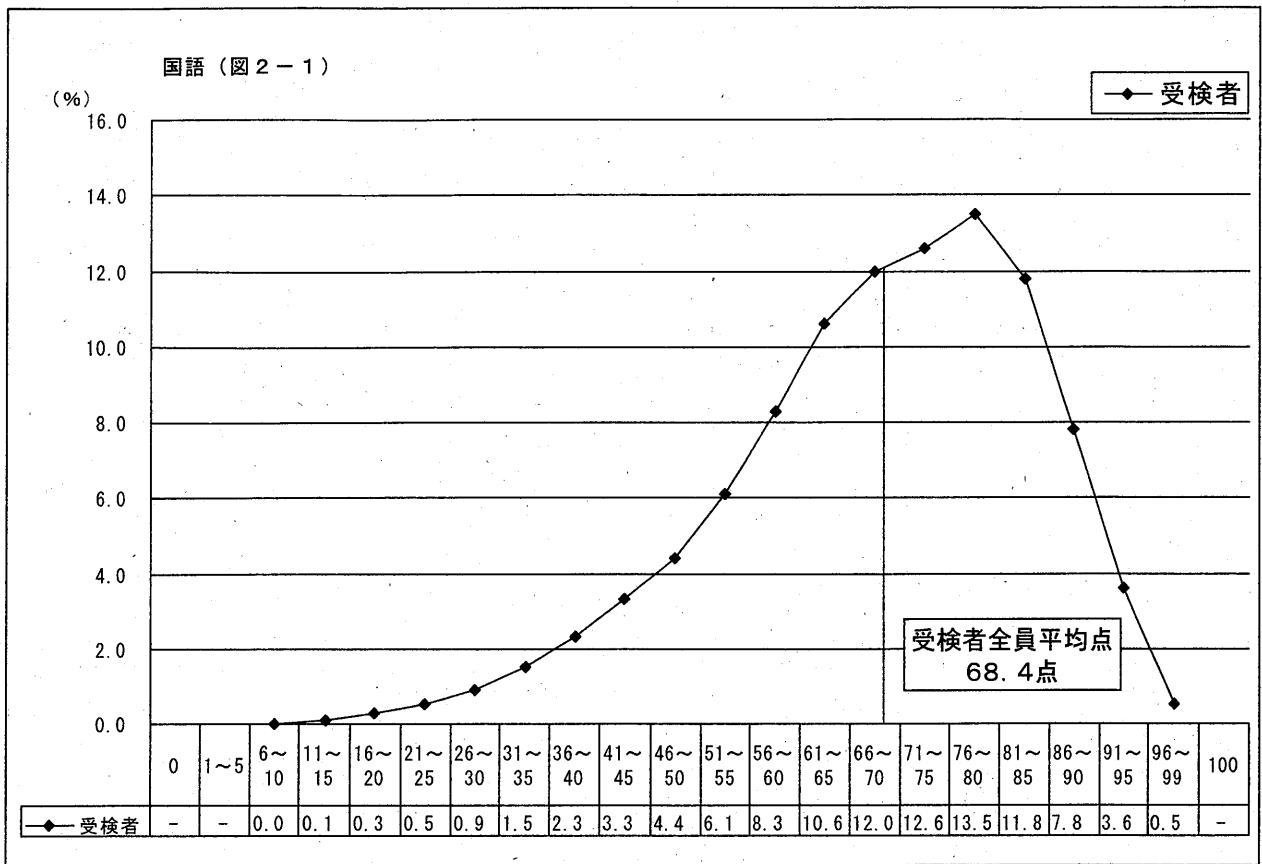
「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の4領域について、知識・理解に偏ることなく、基本的な英語運用能力を検査できる問題とした。

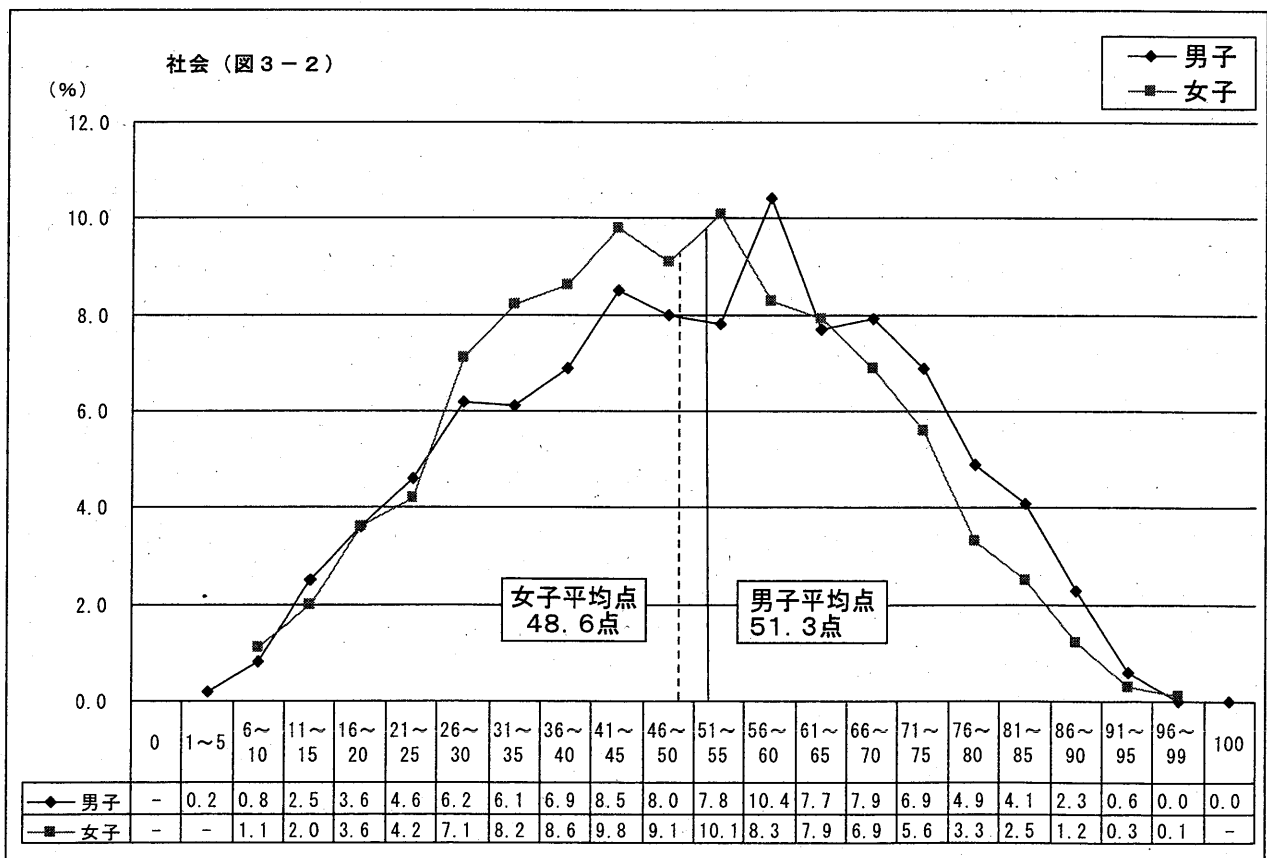
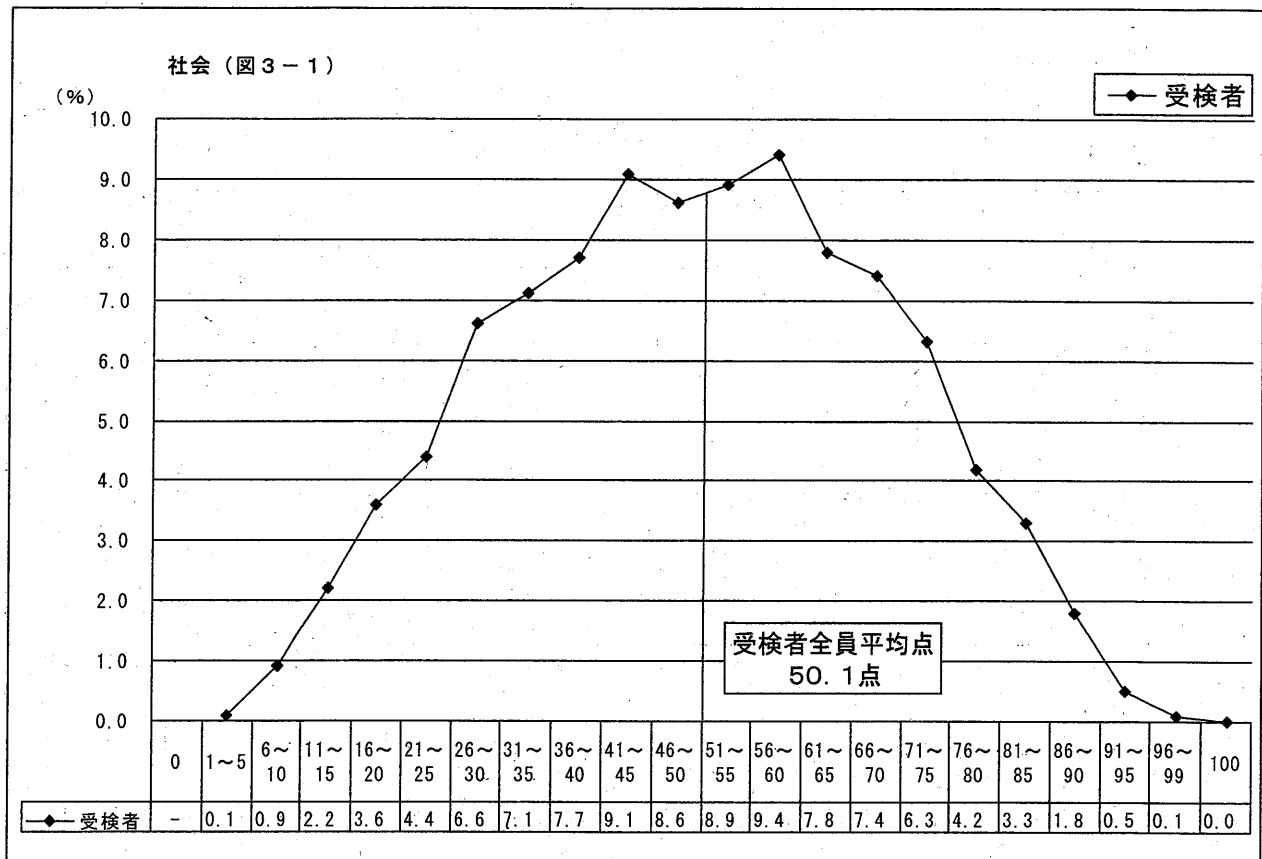
「聞くこと」については、基本的な能力は概ね良好と言える。

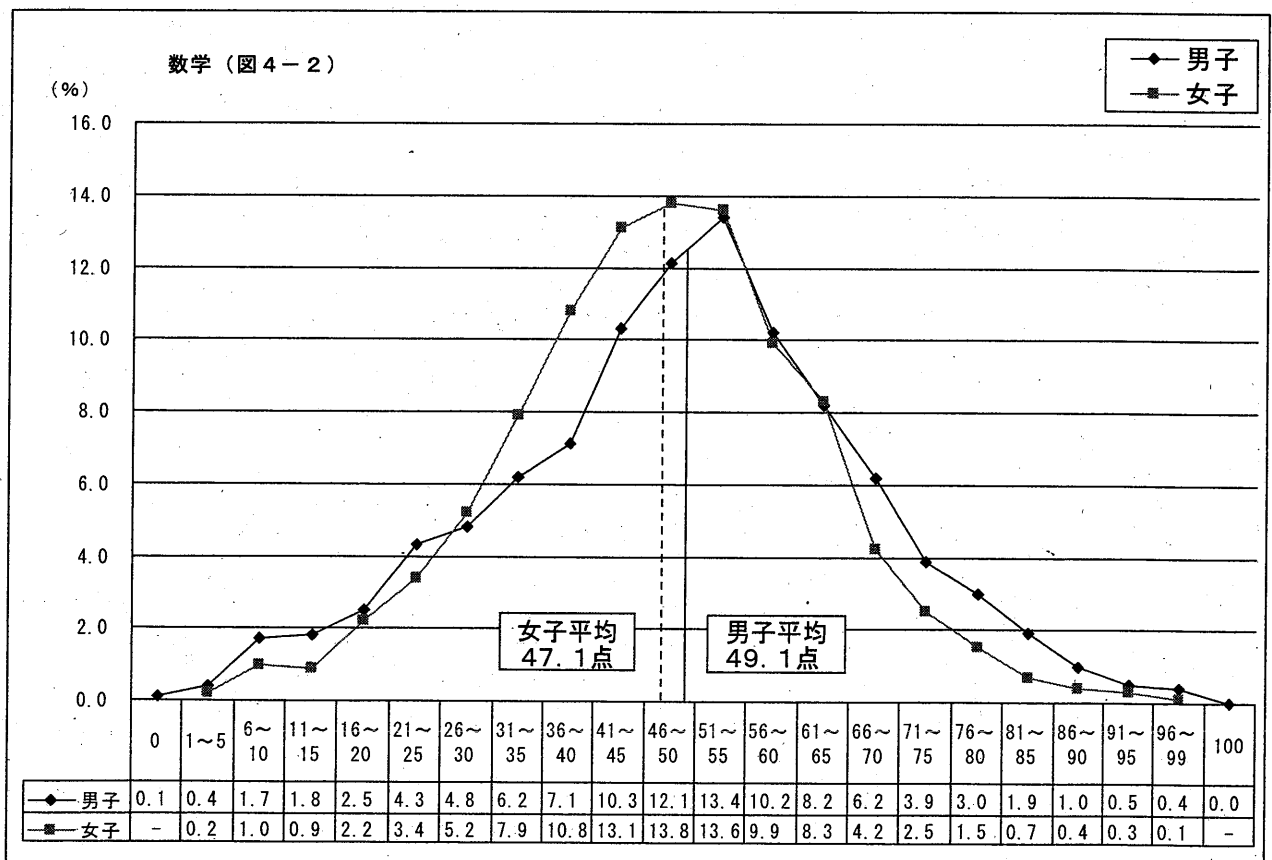
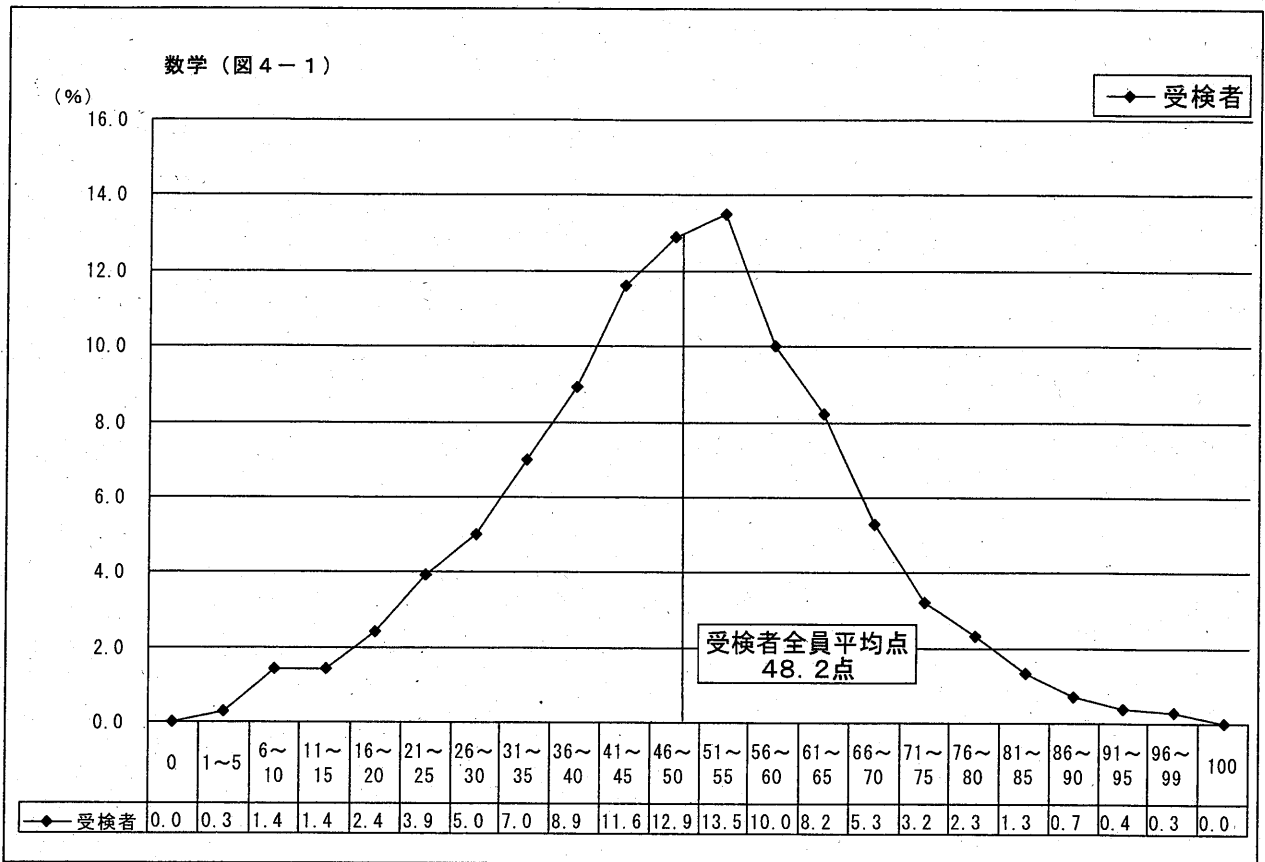
「読むこと」については、英文を読んで内容を理解できるかどうか、様々な観点から評価できるようにした。内容を理解した上で、文脈を踏まえて自分の表現で要約する力には課題が残る。

「書くこと」については、与えられた英文を理解した上で、その内容やテーマに関して自分の考えをまとめた英語で表現できる英語力の育成が求められる。同時に学習した文法事項等を使って、的確に表現する力の育成も今後の課題である。

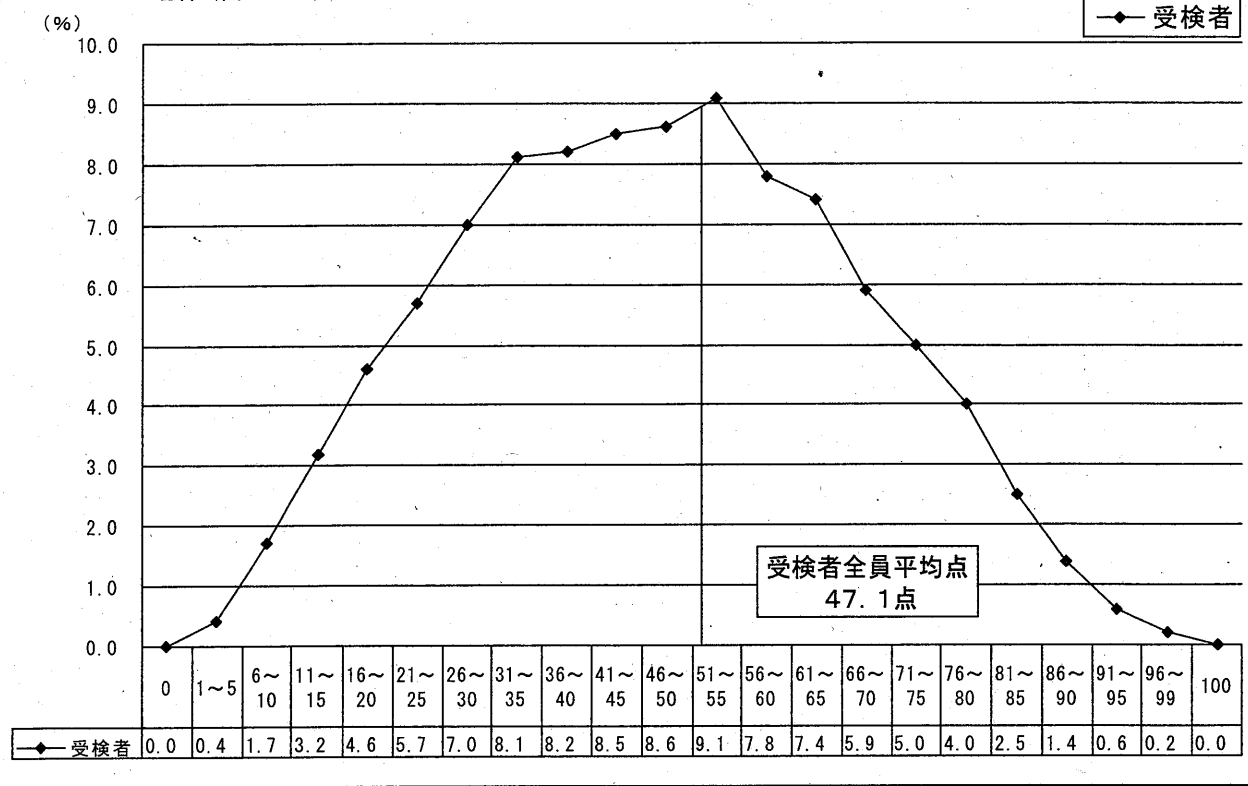




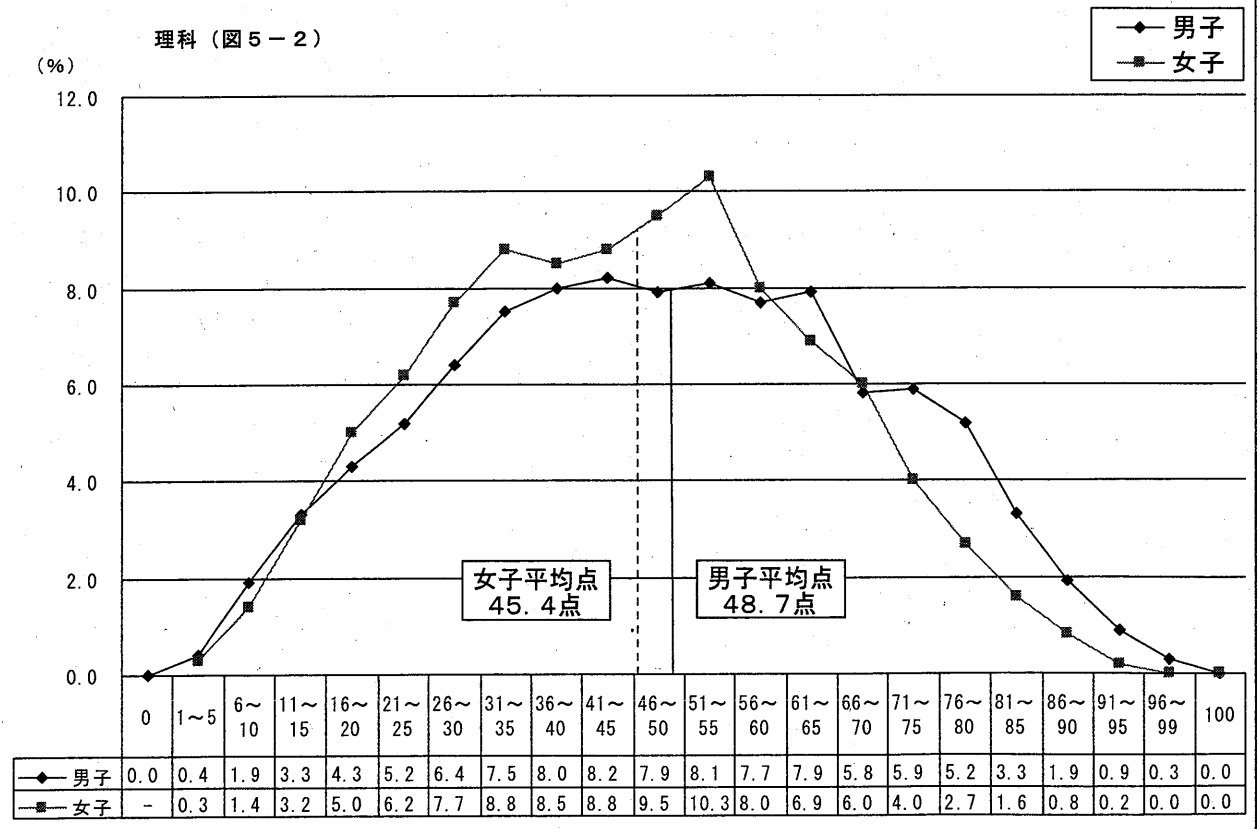


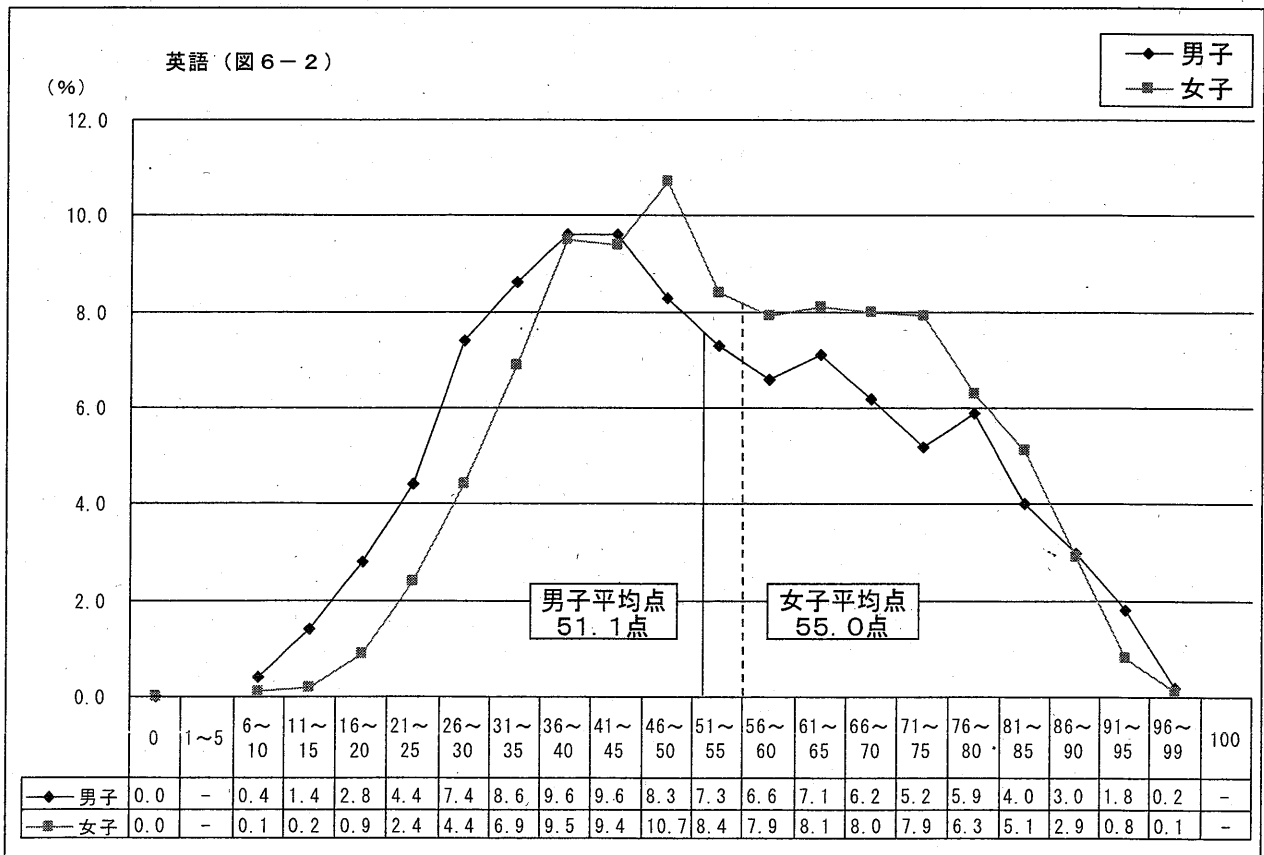
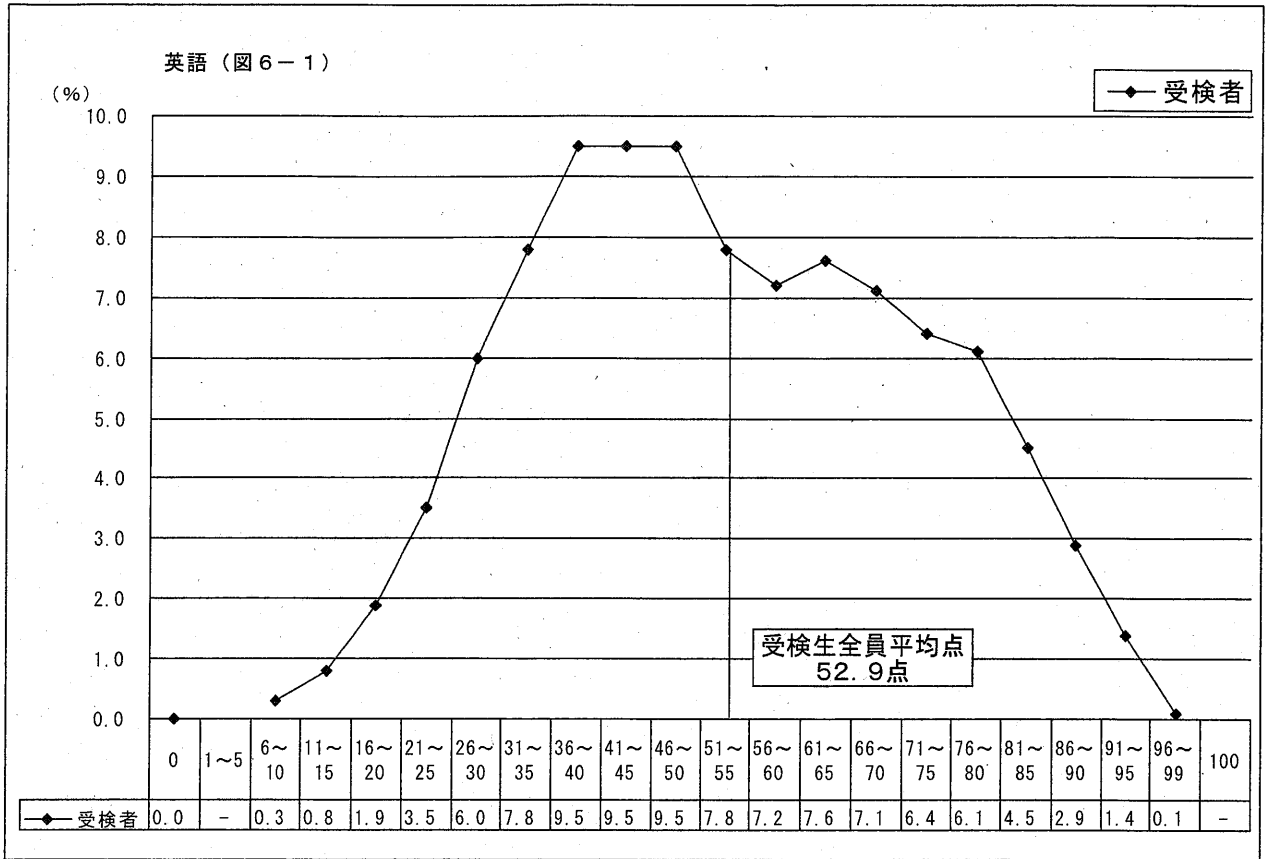


理科 (图 5-1)



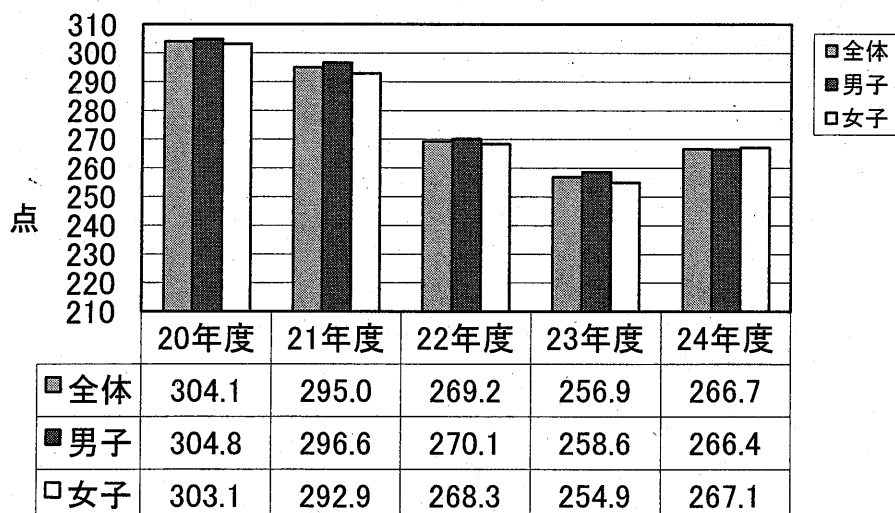
理科 (图 5-2)



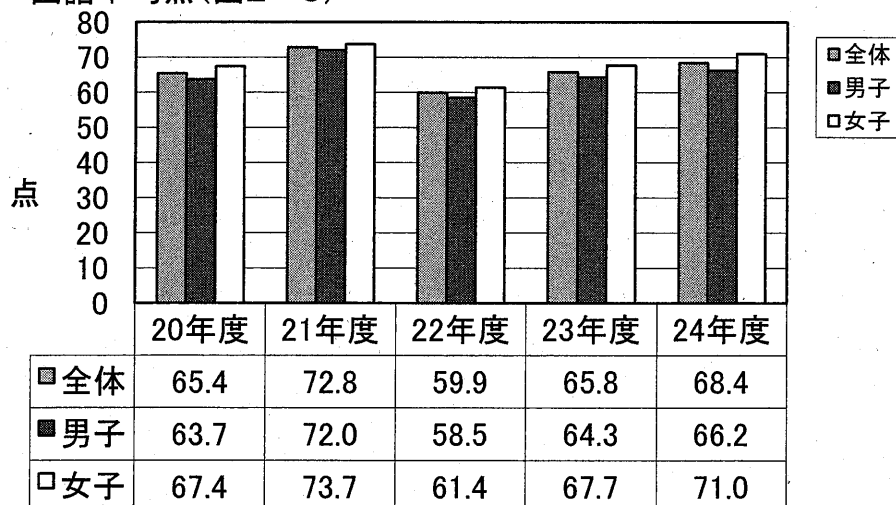


平成24年度 学力検査結果

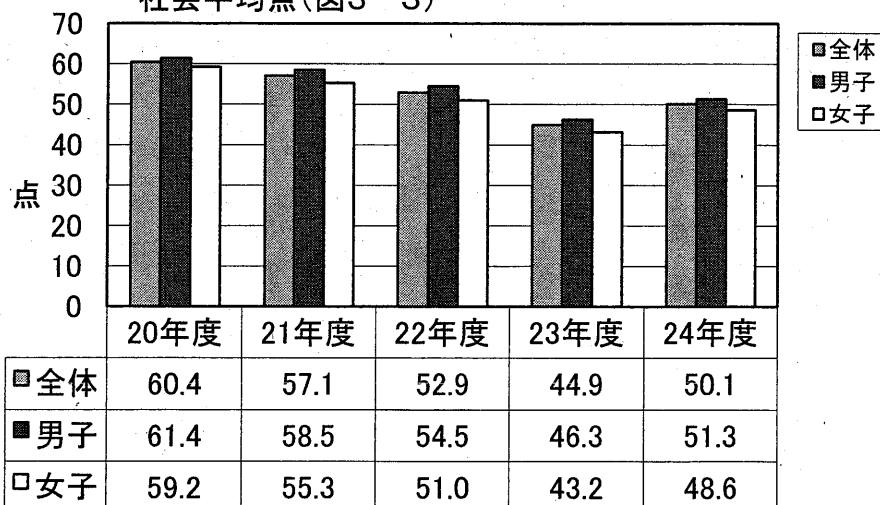
総合平均点(図1-3)

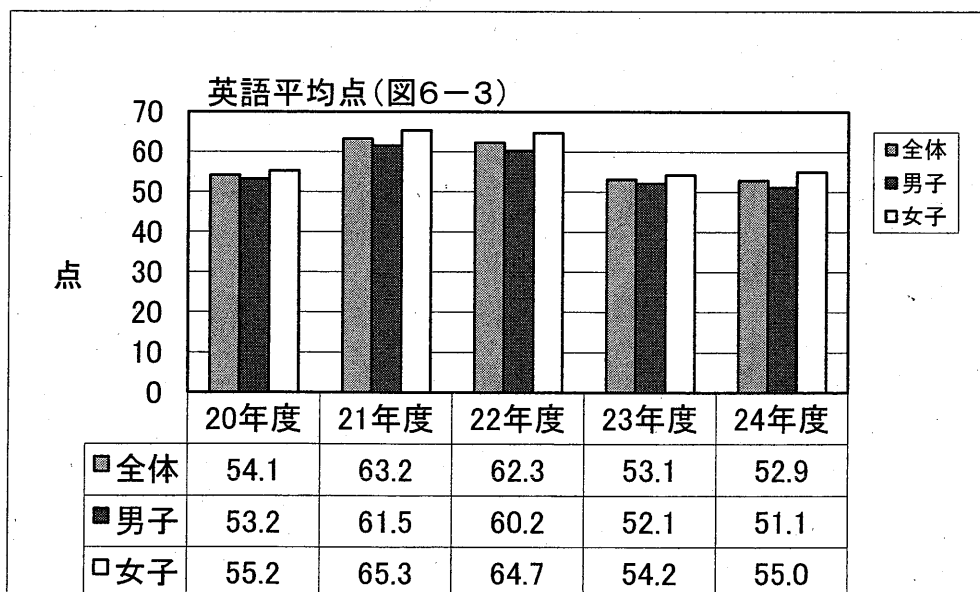
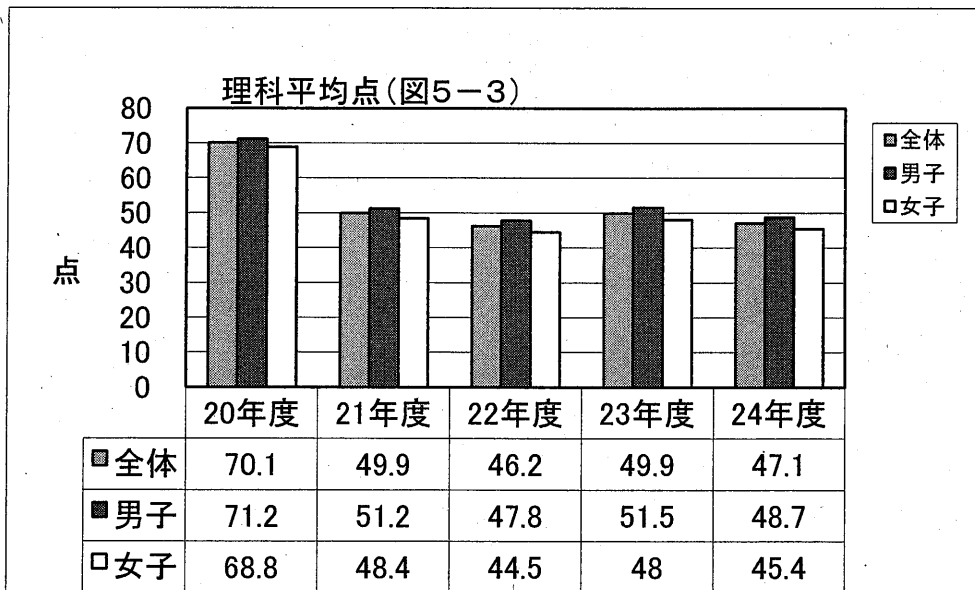
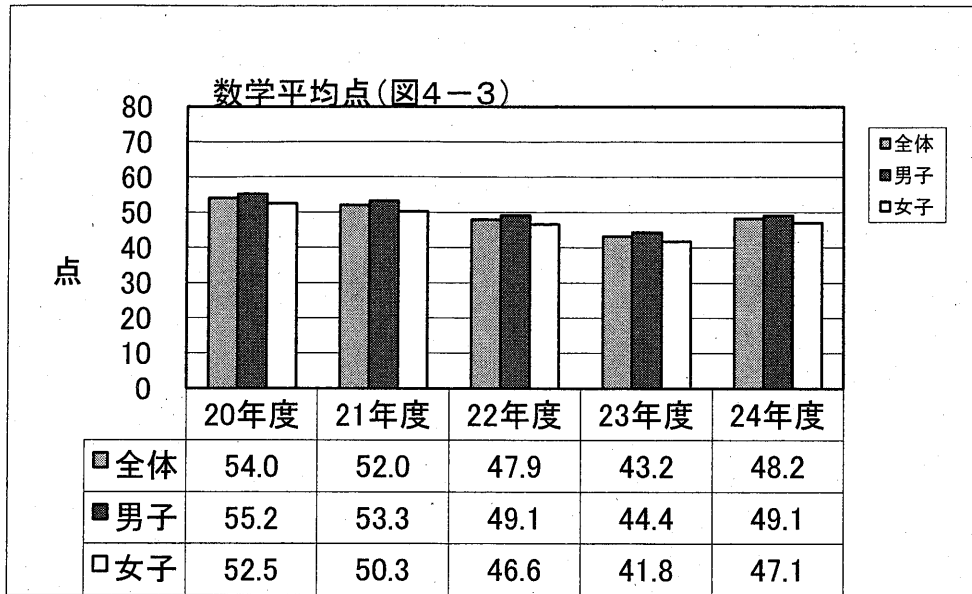


国語平均点(図2-3)



社会平均点(図3-3)





平成24年度 正答率調査表

【国語】

問 題		正答率	誤答率	無答率	
一	一	ア	55.6%	42.1%	2.3%
		イ	26.6%	68.2%	5.2%
		ウ	63.4%	36.2%	0.4%
		エ	85.8%	14.2%	0.0%
		オ	97.5%	2.5%	0.0%
	二	ア	96.4%	3.3%	0.2%
		イ	61.7%	34.7%	3.6%
		ウ	59.0%	37.9%	3.1%
		エ	80.1%	15.9%	4.0%
		オ	84.1%	14.4%	1.5%
	三	91.4%	8.6%	0.0%	
	四	85.1%	14.9%	0.0%	
	二	一	98.3%	1.7%	0.0%
		二	40.9%	52.5%	6.6%
三	一	88.3%	11.5%	0.2%	
	二	80.5%	16.9%	2.5%	
	三	48.1%	50.4%	1.5%	
	四	71.3%	28.0%	0.6%	
	五	(1)	54.6%	45.0%	0.4%
		(2)	66.5%	33.5%	0.0%
		(3)	60.7%	38.5%	0.8%

問 題		正答率	誤答率	無答率	
四	一	44.6%	50.2%	5.2%	
	二	72.2%	27.4%	0.4%	
	三	67.2%	32.8%	0.0%	
	四	70.1%	28.7%	1.3%	
	五	76.6%	19.0%	4.4%	
	六	81.6%	18.0%	0.4%	
	七	(1)	87.7%	7.1%	5.2%
		(2)	81.4%	18.2%	0.4%
	八	得点	得点者の割合	得点	得点者の割合
		0	2.3%	8	17.4%
		1	0.0%	9	17.4%
		2	1.0%	10	7.9%
		3	2.5%	11	6.1%
		4	2.5%	12	4.0%
5		7.5%	13	2.9%	
6		12.1%	14	2.1%	
7	14.2%	15	0.0%		

【社会】

問 題		正 答 率		誤答率	無答率		
		正 答	部分点				
1	1	(1)	名前	78.2%	1.5%	18.4%	1.9%
			記号	74.5%		23.0%	2.5%
		(2)	ア	48.0%	0.0%	52.0%	5.2%
			イ	47.1%	0.0%	52.9%	
			ウ	87.6%	1.8%	10.6%	
		エ	19.9%	5.8%	74.4%		
		(3)	7.3%	0.4%	83.1%	9.2%	
	(4)	63.8%	17.1%	16.3%	2.7%		
	(5)	57.5%		42.1%	0.4%		
	2	(1)	43.1%		55.9%	1.0%	
		(2)	17.4%	0.0%	80.8%	1.8%	
		(3)	18.6%		69.9%	7.7%	
		(4)	66.3%		31.6%	0.8%	
		2	(1)	79.5%		15.9%	4.6%
(2)			53.3%		46.4%	0.2%	
(3)			43.9%		55.9%	0.2%	
(4)	ア		70.1%	4.4%	21.3%	4.2%	
	イ		74.3%		16.3%	9.8%	
(5)	国名		89.1%		10.7%	0.2%	
	事業	45.0%		55.0%	0.0%		
(6)	69.9%		29.9%	0.2%			

問 題		正 答 率		誤答率	無答率		
		正 答	部分点				
2	2	(1)	55.6%		57.3%	0.2%	
		(2)	a	64.0%		25.5%	10.5%
			b	49.6%	1.0%	41.0%	8.4%
		(3)	38.5%		61.5%	0.2%	
3	1	(1)	15.3%	0.0%	84.3%	0.4%	
		(2)	39.7%	3.8%	42.5%	14.0%	
	2	(1)	I	88.6%		10.9%	0.4%
			II	40.7%		53.4%	3.8%
			III	64.2%		32.8%	3.0%
	(2)	44.4%	4.4%	50.8%	2.3%		
	3	(1)	51.5%		47.4%	1.1%	
		(2)	69.4%	0.6%	25.3%	4.6%	
	4	(1)	52.5%		46.2%	1.3%	
		(2)	75.1%		23.6%	1.3%	
4	1	66.5%		31.8%	1.7%		
	2	65.5%	0.0%	26.8%	3.1%		
	3	35.1%		55.6%	9.2%		
	4	38.9%	0.2%	58.4%	2.3%		
	5	28.6%		68.8%	2.5%		
	6	50.4%		47.7%	1.9%		
	7	11.6%	1.2%	61.1%	26.2%		

【数 学】

問 題		正答率	部分正答率	誤答率	無答率
1	1	92.3%	/	7.5%	0.2%
	2	84.9%	/	14.6%	0.4%
	3	86.2%	/	13.6%	0.2%
	4	82.4%	/	16.1%	1.5%
	5	75.1%	/	24.3%	0.6%
	6	81.0%	/	18.6%	0.4%
2	1	55.6%	/	42.3%	2.1%
	2	85.1%	/	13.2%	1.7%
	3	80.3%	/	18.8%	0.8%
	4	73.0%	/	26.2%	0.8%
	5	9.5%	2.1%	72.0%	16.4%
3	1	94.8%	/	3.6%	1.7%
	2	28.2%	/	60.5%	11.3%
	3	57.5%	/	37.4%	5.0%
	4	23.4%	/	55.8%	20.8%

問 題		正答率	部分正答率	誤答率	無答率	
4	1	74.9%	/	19.5%	5.6%	
	2	(1)	20.1%	/	47.9%	32.0%
		(2)	54.6%	/	39.3%	6.1%
	3	(1)	9.6%	/	57.3%	33.1%
		(2)	5.4%	/	76.9%	17.7%
	5	1	77.0%	/	19.7%	3.3%
2		14.0%	/	57.7%	28.2%	
3		33.7%	41.3%	10.2%	14.8%	
4		(1)	4.4%	/	34.9%	60.7%
		(2)	2.1%	/	77.2%	20.7%
6		1	記号	93.1%	/	8.4%
	理由		50.3%	15.1%	31.3%	3.3%
	2	(1)	72.0%	/	18.8%	9.2%
		(2)	13.8%	/	67.2%	19.0%
	3	(1)	20.3%	/	69.9%	9.8%
		(2)	6.9%	/	47.1%	46.0%

【理 科】

問 題			正 答 率		誤答率	無答率	
			正 答	部分点			
1	1	(1)	71.5%	/	26.8%	1.7%	
		(2)	60.7%	/	29.9%	9.4%	
	2	(1)	ア	50.2%	/	45.4%	4.4%
			イ	85.8%	/	12.6%	1.7%
	(2)	61.1%	4.2%	32.2%	2.5%		
2	1	48.7%	/	48.1%	3.1%		
	2	75.7%	/	21.5%	2.7%		
	3	73.0%	3.1%	22.4%	1.5%		
	4	A	41.0%	/	58.8%	0.2%	
		C	42.1%	/	57.7%	0.2%	
3	1	72.6%	/	23.8%	3.6%		
	2	41.8%	/	57.1%	1.0%		
	3	10.9%	/	80.5%	8.6%		
	4	15.5%	/	82.2%	2.3%		
	5	47.7%	1.5%	42.5%	8.4%		
4	1	71.8%	/	27.8%	0.4%		
	2	13.6%	20.1%	39.3%	27.0%		
	3	22.4%	/	77.2%	0.4%		
	4	39.3%	/	59.8%	0.8%		
	5	35.9%	3.2%	49.4%	11.6%		

問 題		正 答 率		誤答率	無答率	
		正 答	部分点			
5	1	65.4%	/	25.6%	9.0%	
	2	36.4%	/	58.4%	5.2%	
	3	(1)	92.7%	/	7.1%	0.2%
		(2)	28.7%	/	71.1%	0.2%
		(3)	46.7%	3.8%	35.6%	14.0%
	6	1	(1)	43.3%	/	56.3%
(2)			34.9%	/	64.6%	0.4%
2		(1)	54.2%	/	45.2%	0.6%
		(2)	37.3%	3.8%	57.9%	1.0%
		(3)	56.0%	12.0%	30.3%	1.7%
7	1	44.1%	/	44.7%	11.1%	
	2	58.5%	/	41.3%	0.2%	
	3	34.9%	14.9%	33.9%	16.2%	
	4	39.5%	/	58.4%	2.1%	
	5	19.3%	/	79.0%	1.7%	
8	1	ア	70.2%	/	25.4%	4.4%
		イ	72.2%	/	20.3%	7.5%
	2	16.1%	/	63.5%	20.5%	
	3	10.1%	21.1%	47.6%	21.1%	
4	46.9%	/	43.1%	10.0%		

【英語】

問 題		正答率	誤答率	無答率	
1	1-1	99.2%	0.6%	0.2%	
	1-2	77.6%	22.0%	0.4%	
	2-1	93.5%	6.3%	0.2%	
	2-2	92.5%	7.3%	0.2%	
2	1	61.1%	38.5%	0.4%	
	2	82.0%	17.6%	0.4%	
	3	74.9%	24.7%	0.4%	
	4	79.7%	20.1%	0.2%	
3	1-1	73.6%	26.2%	0.2%	
	1-2	81.0%	18.6%	0.4%	
	1-3	83.9%	15.7%	0.4%	
	2-1	78.9%	20.7%	0.4%	
	2-2	47.1%	52.5%	0.4%	
	2-3	86.2%	13.6%	0.2%	
	2-3	86.2%	13.6%	0.2%	
4	1	得点	得点者率		
		4	21.3%		
		3	15.1%		
		2	17.8%		
		1	15.5%		
		0	30.3%		
		0点のうち無答者の割合→			5.4%
	2	①	51.9%	47.9%	0.2%
		②	52.9%	46.4%	0.6%
		③	32.4%	66.1%	1.5%
	3	A	25.7%	67.8%	6.5%
		B	20.1%	72.4%	7.5%
		C	6.7%	80.8%	12.6%
	4	a	67.8%	31.8%	0.4%
		b	76.6%	23.0%	0.4%
		c	77.4%	21.5%	1.0%
	5	得点	得点者率		
			4	20.1%	
		3	15.1%		
		2	13.6%		
1		10.5%			
0		40.8%			
0点のうち無答者の割合→			14.6%		

問 題		正答率	誤答率	無答率	
4	6	①	11.1%	77.6%	11.3%
		②	35.1%	48.2%	16.7%
		③	40.8%	49.0%	10.3%
5	1	①	75.1%	24.3%	0.6%
		②	72.0%	27.0%	1.0%
	2	得点	得点者率		
		4	21.3%		
		2	42.1%		
		0	36.6%		
		2点, 0点のうち, 無答の割合			
	1つが無答の者→			2.9%	
	2つが無答の者→			1.9%	
	3	33.5%	63.2%	3.3%	
4	45.8%	50.8%	3.3%		
5	5	A	62.1%	23.4%	14.4%
		B	6.7%	68.5%	24.8%
		C	5.2%	66.3%	28.5%
		D	38.7%	32.4%	28.9%
5	6	得点	得点者率		
		10	20.7%		
		9	11.3%		
		8	11.1%		
		7	9.2%		
		6	6.7%		
		5	5.4%		
		4	4.8%		
		3	4.0%		
		2	3.1%		
		1	1.7%		
		0	22.0%		
		解答の正誤にかかわらず、文を書いた者の割合			
6文以上書いた者→			14.9%		
5文書いた者→			54.2%		
4文書いた者→			4.4%		
3文書いた者→			2.9%		
2文書いた者→			3.6%		
1文書いた者→			3.8%		
無答の者→			16.3%		